

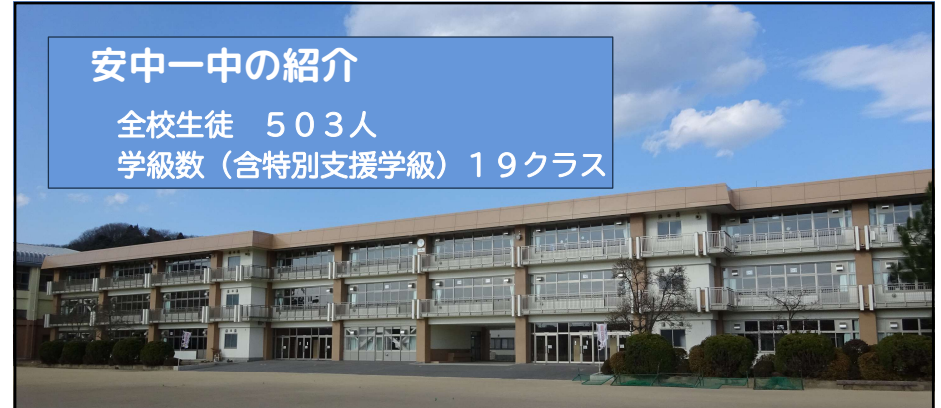
安中市立第一中学校における 「がん教育」の実践

安中市立第一中学校
教諭 櫻井 竜介

1

安中一中の紹介

全校生徒 503人
学級数（含特別支援学級）19クラス



令和6年度
「外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題増進事業」実践校

2

がん教育の目標

- ・ がんについて正しく理解することができるようにする
- ・ 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

学校におけるがん教育の基本的な考え方について

（略）がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、**学校医やがんの専門医等**の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。また、がんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、**がん経験者等の外部講師の参加・協力を推進**する。

群馬県教育委員会「がん教育の手引き（令和4年3月）」

3

2 本校の実践

実践1 授業実践 2学年保健体育（保健分野）

日時：令和6年12月3日（火） 対象：2年2組
外部講師（看護師）とのTT
文部科学省モジュール教材

実践2 がん教育講演会（学校保健委員会）

日時：令和6年12月11日（水） 対象：全校生徒
外部講師（医師・がん経験者）

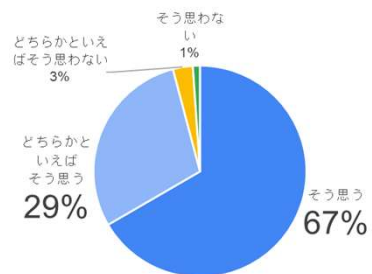
2年生での授業実践から全校での学習へ
教科保健から健康教育へ

家庭との連携

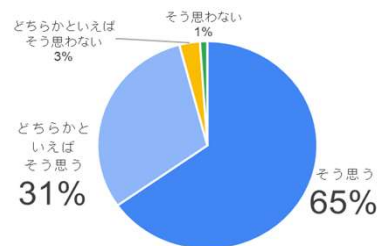
4

1 事前アンケート結果 全校生徒対象

①がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。

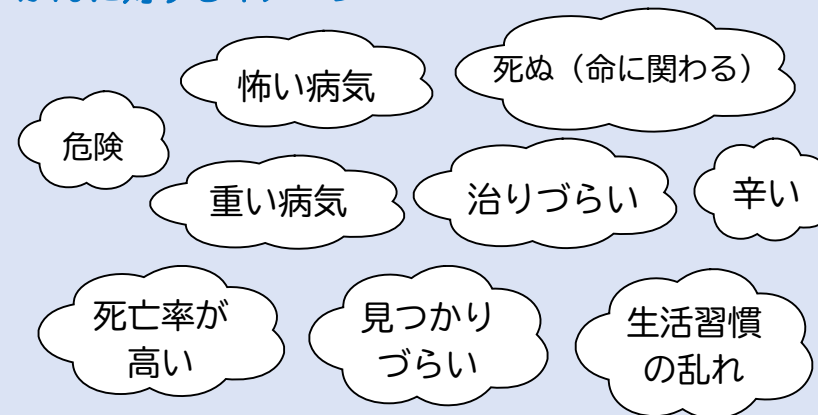


②がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。



5

がんに対するイメージ



6

配慮が必要な生徒への対応

・保護者アンケート

- 「がん教育講演会」実施の連絡
- 生徒が参加することについて配慮が必要か個別に対応

・生徒アンケート

- 講演を聞くにあたって、心配なことがあるか？
- ・授業（講演会）の途中、辛くなったら退室してよい
- ・がん教育を受けて良かったと思えるような内容にしたい

7

実践1 2学年 保健体育（保健分野）での授業実践

単元名（題材名）「健康な生活と疾病の予防」

学習指導要領：（ウ）生活習慣病などの予防 イ「がんの予防」

指導者：桜井竜介教諭、外部講師（看護師）



看護師

教諭

8

本時のねらい

がんについて学んだ知識を生かし予防方法を考え、メッセージカードを作る活動を通して、自分や家族の健康について考え、がんの予防について自分の考えをもつことができる。

	学習活動
導入	・前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ
展開	・「がん」について理解を深める (日本のがんの現状、がんの仕組み、がんの発生要因) ・「がん」の予防方法をグループで考え、発表する (個人→グループワーク→全体)
まとめ	・がん予防の意識を高めるためのメッセージカードを家族宛に書く

教科書の資料
スライド教材
を活用

*看護師：
専門的な用語の説明
重要ポイントの説明

9

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ (5分)

がんの予防

問題①
Q: 日本では、何人にひとりが「がん」になるといわれているか?

2人に1人 3人に1人 4人に1人

問題②
「がん」が、見つけれられる大きくなるには、何年かかるといわれているか?

1~5年 5~10年 10~20年

正解
A: 2人に1人
日本は、世界でもトップクラスの「がん大国」です。

正解
A: 10~20年
がん細胞の数が10億個になって、約1cmの大きさになります。1cmの大きになると、ようやく検診で見つけることができるようになります。はじめて「がん」と呼べる病気になるのです。

10

2 「がん」についての理解を深める (15分)

健康な体が
どうなることを
“がん”
というのだろう

文部科学省スライド資料を活用

がんのしくみ

わたしたちの体の細胞は毎日分裂し新しくなっている 約37兆個

細胞分裂するとき変異が起こることがある

がんのしくみ

異常な細胞ができる

異常な細胞が増えてかたまりになる

悪性のものをがんという

周りに広がりやすくなり血管などに入り込んで全身に広がる

がんの進行と自覚症状が出るまで

1つのがん細胞が1cmの大きさになる 10~20年 (見つけれられる大きさに)

1~2年 2cmになる

がん

細胞が変異する

見つけれられる大きさに

11

日本では
どれくらいの人
ががんになっている
のだろう

がんになる人の割合

2人に1人

がんによる死亡数

37,3547人

3人に1人ががんで亡くなっている

がんによる死亡数は増え続けている

<ワークシート>

めあて: がんについて正しく理解して、今後の生活をどう過ごすか考えよう。

○「がん」って何だろう??

「がん」とは、(異常な細胞が増殖して、大切な臓器を破壊する病気)

*日本では... (2) 人に1人が患い、死因の第1位となっている

* (全ての臓器でがんになる可能性)

*死因 1位: (肺) がん 2位: 大腸がん 3位: 胃がん

*罹患者数 女性→ 1位: (乳) がん 男性→ 1位: (前立腺) がん

12

死因のうちの主な部位

がんによる死亡のうちでの主な部位の割合(2019年)

部位	男性 (%)	女性 (%)
肺がん	28.0	12.0
大腸がん	18.0	15.0
胃がん	15.0	10.0
肝臓がん	12.0	8.0
膵臓がん	10.0	7.0
胆膵がん	8.0	6.0
腎臓がん	7.0	5.0
膀胱がん	6.0	4.0
前立腺がん	5.0	3.0
乳がん	4.0	28.0
子宮がん	3.0	18.0
卵巣がん	2.0	12.0
甲状腺がん	1.0	8.0
皮膚がん	1.0	5.0
その他	1.0	3.0

T1 「病院に勤務していて、
実際どうですか？」

T2 「肺がんで亡くなる人は
多いです。何年もたば
こを吸っている…」

日本の主ながんによる死亡数

1位

肺がん

2位

大腸がん

3位

胃がん

男女別では
男性の1位は「肺がん」
女性の1位は「大腸がん」

日本の主ながん罹患数

1位

大腸がん

2位

胃がん

3位

肺がん

男女別では
男性の1位は「前立腺がん」
女性の1位は「乳がん」

*** 専門用語の説明 (罹患、前立腺)**

[illegible]

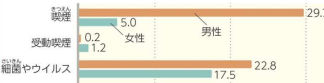
3 がんの予防方法をグループで考え、発表をする（20分）

**がんを予防するには、
どのような方法があるか考えよう！**



個人
↓
グループ

資料 3 日本人におけるがんの要因



どの要因もがん発生になる！
↓
気を付けるべき！




各班がまとめた内容の共有

タバコ、セブきらい、
体を動かす、ウイルス 病院に行く
バランス良く食事、飲酒
癌は怖いけど...生活習慣を正す
マスクを 野暮山食べよ、
やせようぞ

たばこを吸わない、
お酒の飲みすぎ
栄養のある食事、適度な運動
健康診断に行く(定期的)
歯やウイルス(手洗いのせい)
生活習慣を見直す? 3班

タバコを吸わない、運動する
ダイエット、バランスよく食べる
生活習慣を正す、おろ
マスク(ウイルスを防ぐ) がんは怖い
原因は分かっていない、タバコを
果物と野菜を必ず食べる、おろ

・たばこを吸いすぎない
・酒の飲みすぎ
・食事のバランスを正す
・手洗いを毎日・運動
・定期検診は病院 喫煙者
に注意する

・若いうちから対策する
・たばこを吸わない、酒を飲みすぎない
・バランスのよい食事、定期的検診
・予防せよ、適度な運動
・感染対策(手洗いやマスク) 2班

・生活習慣 手洗いのせい
・食事の量
・健康診断 (毎年の検診)
・がん
・女性、飲酒、喫煙
・がん 1班

Q どのような生活を送ればよいのだろう

お酒を飲みすぎない

たばこを吸わない

バランスのよい食事

適正体重の維持

適度な運動

望ましい生活習慣により
がんになるリスクを減らすことができる

がんの予防<ワクチン>

子宮けいがん

↓

HPVワクチン

「生活習慣が悪いから、
気をつけていないから
がんになったのではない」

*この授業で抑えたいポイント、まとめにつながる部分は看護師から

17

原因のわからないがんもある

**がん検診で
早期発見
早期治療
すること！**

Q 検診でがんを早期発見すると
どれくらいの人がかかるのだろうか

早期がんでは
9割の人が
治る

92.8%

がんの進行度と5年生存率の関係

早期発見・治療
は重要！！

がんの進行度	5年生存率
1期	92.8
2期	84.7
3期	54.2
4期	21.5
全体	67.8

国が推奨しているがん検診

胃がん検診

大腸がん検診

肺がん検診

乳がん検診

子宮頸がん検診

がん検診の受診率

ほとんどの受診率が
50%に
達していない

がんの種類	受診率
胃がん	48.0
大腸がん	67.1
肺がん	53.4
乳がん	47.8
子宮頸がん	44.3

18

がん予防のために、自分
はどんなことに気をつけて
いくか考え、隣の人と意見
交流

まとめ

がん予防には、**生活習慣を正すこと**
がん検診による早期発見・治療
が重要である。

19

**4 がん予防の意識を高めるための「メッセージカード」を家族宛に書く
(10分)**

あなたの大切な人が
がんにならないために、
がんの予防の視点から
メッセージを考えよう

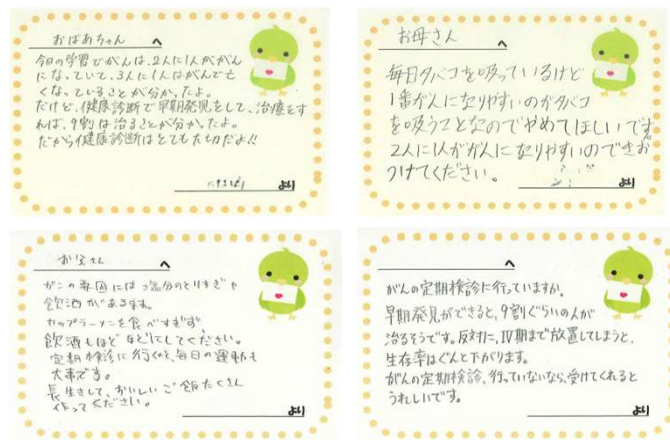
アルコールが関係する
のはどんながんですか？

肝臓がん
食道がん...

おはあちゃん
今日の学習でがんは2人に1人がかかると
知りました。3人に1人はがんになると
知りました。がんは怖い病気です。
たばこ、お酒を飲まないで、健康な生活を送る
ことが、がんを予防する大切なことだ
と知りました。がんを予防するために、
がん検診を受けることも大切だと思いました。

20

家族や大切な人に向けた がん予防のための「メッセージ」



21

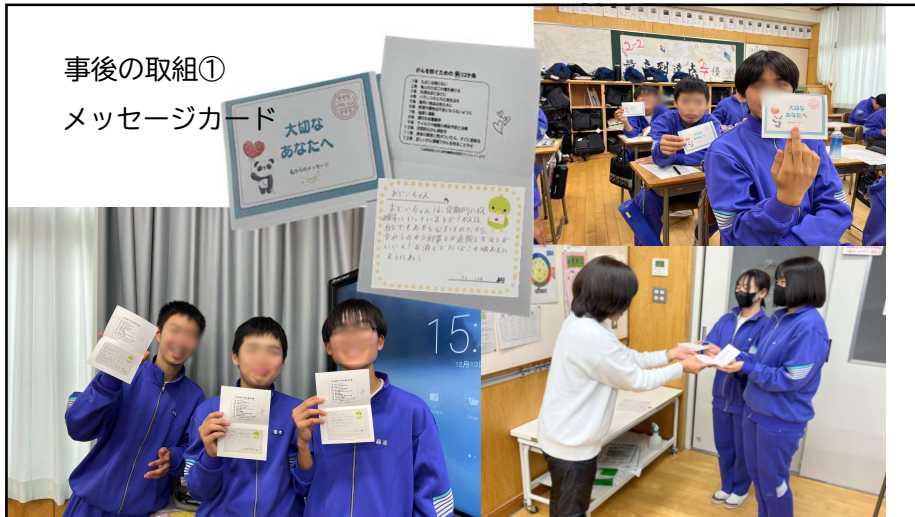


学習したことを今後の生活に生かせるように、考えたメッセージを伝えるとともに、自分の生活も改善できるとよい。今日学習したことを家族にも伝えて欲しい。

22

事後の取組①

メッセージカード



23

成果

- 外部講師（看護師）の活用が、知識の習得かつ意欲的な学びにつながった。また、難しい分野を解説してくれたので、指導者が安心して授業を進められた。
- 看護師の病院での経験談を話していただき、教科書以上に説得感と現実感が得られた。
- 身近な看護師に依頼することができ、打ち合わせなど負担軽減できた。
- 文部科学省のモジュール教材を使うことで、より習得が図れた。
- 生徒は、がん予防のために生活習慣や検診の重要性を理解し、自分自身の生活に気をつけるだけでなく、家族にも生活習慣の大切さやがん検診の重要性を伝えようという意識が高まった。

24

課題

- ①継続してがん教育を進めていくこと
→保健体育科の教員に周知・推奨
- ②外部講師の継続的な選定
→地域の看護師や保健師、養護教諭に依頼する
- ③モジュール教材のコンパクト化
→1授業用にまとめてあると、抵抗感がなく活用が進む

25

実践2 がん教育講演会（第2回学校保健委員会）

日時：令和6年12月11日（水）5・6校時

参加者：全校生徒、教職員、保護者

テーマ：がんを知って、今私たちにできることを考えよう



ねらい：

外部講師（医師、がん経験者）による講演会を実施し、がんについての正しい理解と、がん患者や家族に対する共感的な理解を深め、自分たちができることを考える。

26

医師、がん経験者を講師に

- ①「がん」についての正しい知識
科学的根拠に基づいた情報、予防、治療など → 医師
公立富岡総合病院
医師 町田先生
- ②がん患者への理解
経験談に基づく話、周りの人のかかわり → がん経験者
松井さん
- ③健康と命の大切さについて考える → 医師
がん経験者

27

がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧

現在

【群馬県内でがんの診療等を行う病院】		がんに関するテーマ					実施規模	費用	備考
地域	施設名及び連絡先	講師	がんとは	予防・検診	治療・緩和	緩和・生活	その他		
高崎	高崎総合医療センター 担当課：療養緩和内科 Tel 027-322-5901 Fax 027-327-1826 Email tanaka.hoshoku-zb@mail.hosp.go.jp	医師	○	○	○	○		指定なし	謝金＋旅費
		看護師	○	○	○	○		指定なし	謝金＋旅費
		相談員						指定なし	謝金＋旅費
		薬剤師						指定なし	謝金＋旅費
前橋	前橋市立総合医療センター 担当課：内科連携課 Tel 027-362-6201 Fax 027-362-0217 Email zenkei_2@nmdaka-kai.com	医師	○	○	○	○		指定なし	謝金＋旅費
		看護師	○	○	○	○		指定なし	謝金＋旅費
		相談員						指定なし	謝金＋旅費
		薬剤師						指定なし	謝金＋旅費
藤岡	公立藤岡総合病院 担当課：医事情報課 Tel 0274-22-3311 Fax 0274-24-3161 Email n-hyo@fujoka-hosp.or.jp	医師	○	○	○	○		指定なし	不要
		看護師	○	○	○	○		指定なし	不要
		相談員						指定なし	不要
		薬剤師						指定なし	不要
東岡	公立東岡総合病院 担当課：緩和ケア科 横山 Tel 0274-63-2111 Fax 0274-64-3377 Email ayumu@tomokahosp.jp	医師	○	○	○	○		指定なし	不要
		看護師	○	○	○	○		指定なし	不要
		相談員						指定なし	不要
		薬剤師						指定なし	不要

28

事前の打ち合わせ … 電話、メール、来校

- ・当日の流れ（2部構成）
- ・講演内容の確認、学校の意向
- ・家族にがん闘病中、家族をがんで亡くしたなど配慮生徒がいること
- ・生徒の「がん」のイメージ、がんについての理解度
- ・医師に聞いてみたいこと、がん経験者に聞いてみたいこと
- ・2年生は「がん」について、保健体育（保健分野）の学習後であること

29

第1部 医師による講演

講師：公立富岡総合病院 検診センター医師 町田昌巳 様
演題：「中学生に知って欲しい『がん』のこと」
～正しい理解と健康な生活～

講話の内容

- 1 “がん”ができるのはなぜ？
大きくなるのは？
- 2 がんを避ける生活
早く見つける方法
- 3 がんの治し方・支え方
- 4 中学生のみなさんへのメッセージ

大切なことは、**正しくこわがる**こと



医師による講演

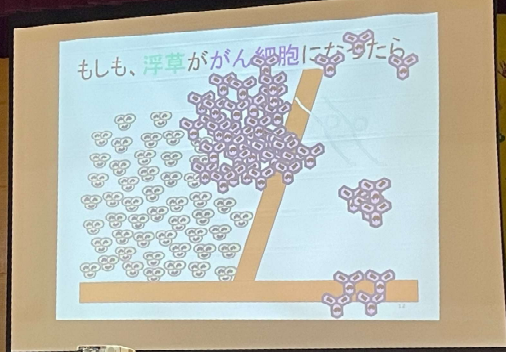
30

がん細胞の特徴

- ・形やはたらきが正常ではない。
- ・まわりを気にせずにとんどん増える。いつまでも増える。
- ・体の中で、遠くに飛んでいった先でも増える。（他人の体には広がらない。）

がんのでき方、広がり方 田んぼの浮き草に例えると

もしも、浮草ががん細胞になつたら



31

中学生のみなさんへの メッセージ

- ・がんについて**正しい情報**から理解する。
- ・**健康的な生活**や**感染対策**で予防できるがんがある。
- ・時期が来たら**検診**を受けて、なるべく早くがんを見つける。
- ・治療は、正しい知識から。まず**標準治療**を受けることをめざす。
- ・がんになっても、**生活の質を保つ**方法がある。

32

第2部 がん経験者による講演

講師：NPO法人つながるん場
理事長 松井葉子 様
演題「がんになって思うこと」

講話の内容

- ・自己紹介
- ・がんのイメージ
- ・がん？ →がん拠点病院へ
- ・日々揺れ動く感情
- ・入院、手術
- ・がん患者の望み、接し方は？
- ・がん患者が暮らしやすい社会とは
- ・生きるということ
- ・がんサロンって？

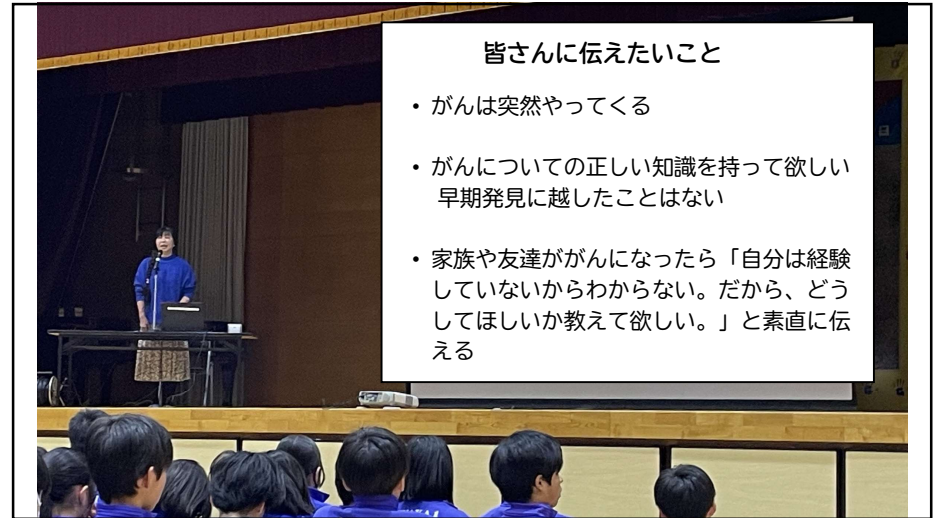


がん経験者による講演

33

皆さんに伝えたいこと

- ・がんは突然やってくる
- ・がんについての正しい知識を持って欲しい
早期発見に越したことはない
- ・家族や友達ががんになったら「自分は経験していないからわからない。だから、どうしてほしいか教えて欲しい。」と素直に伝える



34

生徒の感想

- ・がんは誰にでも起こる可能性がある身近な病気だということがわかった。
- ・がんについての理解が深まり、正しい知識が身についた。
- ・がんの予防にはよい生活習慣が大切であることが分かった。
- ・早期発見のために、健康診断と定期検診が大切であることが分かった。
- ・早期発見が重要で、将来、がん検診に行こうと思った。
- ・家族や身近な人とがんや健康について考えるきっかけになった。
- ・がん患者がどのような思いを抱くのか知ることができた。
- ・がん患者への接し方について理解を深めた。
- ・家族や大切な人にがんの知識や予防の大切さを伝えたいと思った。
- ・自分が健康に暮らしているのは当たり前ではないのだと実感した。
- ・後悔しない人生にするために、今を一生懸命に過ごすことが大切であることがわかった。

35

教師の感想

- 生徒にとっても「なんだかわからないから怖い」というのではなく、がんを正しく理解することができたと思います。
- 1年生のライフ（生活ノート）に、講演会の振り返りや考えたことを多数記入しており、記憶に残る内容だと感じられました。
- 2年生の保健の授業でもがん教育を行っていたのですが、授業内容の復習になるだけでなく、教科書外の話も聞くことができました。特に、授業では扱いきれなかったがん治療法やがん患者との共生について、講演会で触れていただき、がんについて網羅できたと感じられました。2年生にとっては、知識をかなり深掘りできたと考えられます。

36

○学校保健委員会だより、学級通信



37

○図書室 「がん」の本紹介コーナー



<今後の取組>

生徒の予防意識が高まるよう、掲示物や保健だよりを活用し、がんに関する情報を発信していきたい

38

3 成果と課題

<成果>

- 外部講師（看護師、医師、がん経験者）による授業と講演会を通じ、がんに関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を、現実感を持って学ぶことができた。
- 学校全体でがんに対する理解が深まり、自他の健康や命の大切さを考える貴重な機会となった。
- 生徒が学んだ知識を家族に伝え、家族でがんについて話し合うきっかけを作ることができた。

39

<課題>

- 外部講師の確保と綿密な打ち合わせが必要である。
- がん教育に割けられる時間が限られている中で、他の健康教育とのバランスを考慮する必要がある。
- 身近な人ががんに罹患している生徒への適切な配慮を今後も続けていく必要がある。
- 教師自身のがんに関する正しい知識の習得、情報のアップデートが必要である。

40

ご清聴ありがとうございました